

令和3年度第3回矢巾町立学校通学区域審議会報告書

1 開会（午後6時30分）（田中館学校教育課長）

2 挨拶

○田村会長

今回は、前回から引き続き、開発予定地区の関係の通学区域について、ある程度方向性を示していければと考えているので、よろしくお願いします。

3 議題（進行 田村会長）

（1）開発予定地区を含めた通学区域の検討について

高橋学校教育課長補佐が、開発予定地区、教室使用状況、田中地区及び下花立地区の学区を徳田小学校、煙山小学校、不動小学校、矢巾東小学校とした場合のメリット、デメリットに関する資料のほか、前回依頼されていた資料として、スクールバスの運行状況、近隣小学校及び矢巾東小学校の建設費用、行政区ごとの人口動態、今後の学校施設整備計画について示し、資料に基づいて説明を行った。

○田村会長

今回示された資料の項目を整理すると、一つ目は児童生徒数、現在の施設、学校のキャパシティー、容量は決まっているといった観点から考えていただきたいこと。

二つ目は、通学に関する点になります。距離的な問題、安全面という点が前回、多くの委員さんから出されていた部分になろうかと思えます。あわせて、スクールバスの運行に関わって時間的な問題と経費のことについても今回示されています。

もう一点、行政区との整合性という部分。今後のことを考えていくと、通学区域の方を先行しながら、確定していかないと中々決めていくのは難しいということから、行政区とのバランスというのを少し心に留めておきながら議論を行っていただければありがたい。

最後に人口動態について、前回も前々回も事務局から出されているものではあります。このような開発が進み、人口流入があったとしても、ゆくゆくは減少に転じるということを中心に留めながら議論していく必要があると思っています。

以上のことを踏まえ、委員の皆さんからご意見を頂戴し、方向性を確認していければと考えている。

○G 委員

煙山小学校の児童が増えて、徳田小学校、不動小学校の児童が減っているということから、田中地区を徳田小学校、下花立地区を不動小学校に割り振ればいいのかと考えている。

○J 委員

田中地区は徳田小学校、下花立地区も徳田小学校が良いのではないかと考えている。

新校舎の建築も当分見込めない状況であること、また、徳田小学校、不動小学校はキャパシティー的には十分受け入れ可能であること、三つ目は、望ましい通学距離や時間を考えれば、どちらも徳田小学校が良いのではないかと考えた。

検討課題として、行政区が、南矢幅2区と南矢幅5区ということで、煙山小学校に通っている子どもと、徳田小学校なり不動小学校なりに行く子どもと、そのところで行政区の中で子ども会をどうするのか、あるいは行政区を再編するのかわからない部分もあるが、行政区内で解決できるものであればよいのかなと思っている。

○L 委員

田中地区と下花立地区は徳田小学校が良いと考えている。

資料のデメリットの部分について、学区内ではあるものの、通学距離が2km圏内ということ、また、スクールバスの費用を考えると、すぐに用意することはできないということで、子どもたちの安全面のことを考えれば徳田小学校が良いと感じた。

気になるところが、徳田小学校が老朽化という面で、修繕費用は見ているようではあるが、コンクリート等の安全性といった部分について、学区が決まった段階で、見直しやチェックをしていただければコスト面も抑えられるのではと考えられる。

○P 委員

田中地区も下花立地区も徳田小学校が良いと思う。

徳田小学校はキャパシティー的に問題ないのかももう一度確認しておきたいが、通学距離が2km圏内ということでスクールバスは必要ないという部分でそう考えた。

ただ、懸念として、バランスまで考える必要があるかどうかはわからないが、不動小学校の児童数の推移を見ていくと、一学年が20人台になっていくということで、教育を行っていく場合に課題が出てくるか出てこないか、そこが心配される部分と考えている。

○E 委員

田中地区も下花立地区も徳田小学校が良いのかなと思っている。

人口減少に伴って、減少比率と学校施設に係る修繕費用を見たときに、お金がかかりすぎる部分があるのかなと考える。長寿命化を行うに当たって15億6千万円という金額をかけるよりは、小規模修繕で徳田小学校を持たせている間に、不動小学校を改修するのではなく、不動小学校と徳田小学校を統一させて、例えば矢巾中学校の近くに建てていければいいのではないかなと考えている。

スクールバスに関しては、スクールバスの対象地区を見ると人口、子どもの人数が減少していく傾向となっているため、運行比率も減ってくるのではないかなと思うので、お金と子どもたちの通いやすさの観点も含めて今後考えていく必要があると感じている。

○H 委員

E 委員寄りの意見となる。

徳田小学校を持たせていくという部分は賛成である。不動小学校は、先々の状況を見てから判断しても遅くないのではないかと考えている。

特に新しい三地区から生まれてくる子どもたちのピークが収まった頃に、令和30年以降のところから少なくなってくるので、そこまで何とか持たせられれば、その方向で考えて進めて、その時点で徳田と不動が一緒になった方が良いのではないかといった判断を行っても遅くないと考えている。

○I 委員

田中地区も下花立地区も徳田小学校でよろしいのかなと考えている。

また、E委員、H委員の意見と同じような意見になるが、学校統合の話は今までも出てきていた話ではあるが、その点を考えていくことを想定すると、スクールバス等々に費用をかけていくということは避けるべきであることと、資料にもあったとおり、開校するに当たって8年という長い時間がかかるし、議論によってはもっと時間がかかることも想定されるので、今回は徳田小学校に割り振って、その間、学校統合についても考えていくというのが最善なのかなと考えているところである。

○K 委員

二つの地区は、徳田小学校で良いのではと思うが、家庭によって学区の選択制を考えてもいいのかなど思っているところである。

○M 委員

田中地区も下花立地区も徳田小学校、いずれは新しい学校を建築して統合というのが望ましいのではないかと思ったことと、藤沢地区の学区を矢巾東小学校とした場合、今の空き教室だけで賄えるのか、キャパシティ的に問題はないか確認したい。

もしかすると、行政区別の人口推移を見ると、矢巾3区あたりが徳田小学校に行くというのもありなのかなと感じた。

○田中館学校教育課長

矢巾東小学校に関しては、今現在、児童数は減っている状況であり、増えたとしても規模的には問題ない。

喫緊の課題として藤沢、田中、下花立の三地区の問題があるので、今話があった学区全体の部分についてはこの後の全体の見直しの中での議論とさせていただきたい。

○N 委員

田中地区も下花立地区も徳田小学校で良いのかと思う。

児童を集中させることによって、修繕費用も多くかけられること、通学に関しても安全に通学ができるのではないかと思った。

ただ、小学校を建てるというのは、人口が減っていく中で疑問ではあるが、またその時期になったら考えればいいのかなど思ったところと、不動小学校についても今後の動向

を見て考えればよいと思う。

学区に関して、そこで暮らす子ども、保護者が選択権を持てるような学区を作り調整を図っていくといったようにできないかなと思った。

○F 委員

皆さんと同じ意見であるが、保護者の気持ちで住宅を建て、子どもたちは仕方がなくその学校に入るといった状況もあると考えられるので、この地区であればこの学校の学区になるといった部分をしっかり明記し、説明していく必要があると思う。

○B 委員

コスト面、時間、距離いろいろ考えると田中地区も下花立地区も徳田小学校が良いのではないかなと思う。南矢幅2区、南矢幅5区のエリアに入っており、混乱することもあるかもしれないといった心配はある。

○A 委員

田中地区も下花立地区も徳田小学校が良いのではと考えている。

子どもたちの負担を考えると、いくらでも学校に近い方が良いし、安全である。

現状、住宅は何もない部分を開発するということであれば、一時的に新しい行政区を作るといったものもありではないかなと考えた。

○K 委員

川村呉服店の南側に歩道がないが、そういった部分も考えていく必要がある。

○田中館学校教育課長

20~30mほど歩道がない部分があると思うが、徳丹城跡地ということで、すぐに歩道を整備するのは難しいと思う。

なお、路側帯の部分に青色のカラー舗装を施し、注意喚起を行っているところである。

○K 委員

現状として仕方がないが、将来的には広くしなければならぬと考える。

○E 委員

今後の議論になると思うが、皆さんが行政区の話をしていて思ったのが、同じ行政区で学校が違うといった場合、子ども会が一緒だと運営が難しいのではないかなと感じたので、今後、その辺も加味しながら議論ができればと思った。

○田村会長

子どもは学校ばかりにいるわけではないので、大事な視点だと思う。

○高橋学校教育課長補佐

行政区再編については、総務課と企画財政課と並行して話を進めているところ。

また、子ども会については、担当は文化スポーツ課になるので、そちらと話を進めていきたいと考えているところである。

○L 委員

交通安全の部分で、スクールガードが見守りをしてきているが、ボランティアの方がほとんどであった。歩道の整備ができなければ、何かしら安全対策について町で考えてほしい。

○田中館学校教育課長

先ほどから学校を選択できないかという意見が出されているが、義務教育ですので、学区というのは必要になってくる。ただ、学区境のところに家がある場合、道路一本隔てて、学区が変わってしまうことにより友だち関係が崩れてしまうといった場合も考えられる。そういった場合は、区域外就学を認めている場合もある。

○田村会長

すべての子どもが 学校を選択していくというのは、難しい状況ではあるが、一つの方法論としてやっているところもあるので、複数の方々から出ている内容ですので、意見として大事にしていきたい。

それでは、他に意見がないようですので、審議会の答申ということで、皆さんと確認していきます。

まずは、藤沢第二地区については、さまざまな事情を勘案していくと、特にも距離的な問題を考えると、矢巾東小学校が妥当ではないかということ。

田中地区、下花立地区に関しても、さまざまな観点からご意見が出されていますが、現時点では、徳田小学校に通うというのが妥当な方向性ではないかということでの確認でよろしいでしょうか。

<異議なし>

○田村会長

あわせて、皆さんからたくさんの意見をいただいていることから、附帯意見として答申に入れていきたいと思えます。

一つ目は、煙山小学校の児童数が非常に多くなり、施設が狭隘化してきていること、逆に、不動小学校は一学年一学級というのがさまざまな教育活動を展開していく上で適正規模とは言い難いという部分がある。そのあたりのバランスというのは、今後、学校の建築はなかなか厳しいという意見も出されているので、どういう形で子どもたちの教育環境を整えていくのかというあたりを、少人数でも大きい人数でも、さまざまな工夫、改善

をしていくことで整備していかなければならない。環境を作っていくのは私たちの使命だろうと思うといった観点が一つ。

二つ目は、通学路に関しての整備充実について、これまでもやってきているとは思いますが、町民すべての願いというところでもありますので、改善を是非図っていただきたいといった部分。

三つ目は、行政区の課題について出されているので、庁内関係機関の協議、連携を含めて今後考えていただければといった部分。

最後に、全体的な学区について、今後の審議会の議題にもなってきますが、学区の全体的な見直し等を含めての子どもたちの環境整備、子どもたちが通う学校の環境整備ということが重要ではないのかなと考えている。

以上のところで、皆さんの意見を精査しながら附帯決議として答申に盛り込んでいただくようにしたいと思うがよろしいでしょうか。

<異議なし>

本日の議題はこの一点ということで事務局にお返しします。

4 その他

事務局からの連絡事項

○高橋学校教育課長補佐

今回の議論は、喫緊の課題を議論していただき、方向性を出していただいたが、この先、次回は2月くらいになると思うが、今後の長期的な部分の議論ができるように、資料を準備していく。

○和田教育長

年末の大変忙しいときに集まっていただき感謝します。それだけこの問題が大きな問題であると、矢巾町にとって、教育委員会にとって大きな課題であることだということで、我々も慎重に取り組んで参りますので、来年も引き続き協議をお願いしたい。

○K 委員

最後に、不動地区にはゆうゆう広場がある。住宅地にしてもらえればありがたい。そういった部分も入れてもらえればと思う。

5 閉会（午後7時47分）（田中館学校教育課長）